

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日実施)	総合評価(4月4日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・中等教育学校における教育課程の基準の特例等を活用し、6年間の一貫した教育課程を編成し、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性の伸長を図るよう、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>・教科・科目の学習を通して知識・技能を基礎としながら、自ら課題を見出し、課題を解決するため、他者と協働する学習に取り組み、自然を探究する学習を通して、組織的な授業改善を推進し、科学的・論理的思考力の育成に取り組む。</p>	<p>①授業時間数の充実を図るために課題を共有し、学校行事等の精選と学習指導計画の見直し等の解決策を検討し授業時間数の確保に向けた取組を実施する。</p> <p>②生徒に基礎的基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成するためにアクティブ・ラーニングを取り入れ、さらに国公立大学受験に対応できる質の高い授業研究を進める。</p> <p>③『理科』では『サイエンスチャンネル』の科目内容をふまえた学習内容を研究し実践し生徒の主体的な学習を深め理数教育の充実を図る。</p>	<p>①標準授業時間数の確保のために、プロジェクトチームを立ち上げ、完全実施に向けて検討する。</p> <p>②全ての教科において、アクティブ・ラーニングを導入した研究授業を実施する。全ての教科において、相互授業見学を実施する。</p> <p>③理数教育の充実のために、教科として、指導方法や教材内容についての授業研究を実施する。理科の教科内で「サイエンスチャンネル」の内容を受け継いだ「探究活動」の計画を明示し、今後も継続して主体的学習が実施できるようにする。</p>	<p>①標準授業時間数の確保ができたか。</p> <p>②生徒による授業評価の項目4「生徒主体の授業の工夫」における肯定的評価の回答が、全教科平均して6割以上であるか。相互授業見学において、全ての教員が年間2回以上、他の教員の授業を見学したか。</p> <p>③生徒による授業評価「理科」において、項目4「生徒主体の授業の工夫」における肯定的評価の回答が6割以上であるか。</p>	<p>①今年度は50分換算での35週を達成できなかったが、平成29年度より後期課程では、日課表を変更し、100分授業を導入することとした結果、35週1225時間を確保することができた。</p> <p>②生徒による授業評価の「生徒主体の授業の工夫」の項目で、肯定的評価の回答が前期・後期課程で、第1・2回ともに7割以上であった。相互授業見学期間では、全ての教員が2回以上見学することはできなかった。</p> <p>③生徒による授業評価において、理科の「生徒主体の授業の工夫」における肯定的評価の回答は、前期課程は第1回、第2回とも8割以上、後期課程は第1回、第2回とも7割以上であった。</p>	<p>①平成30年度に授業時間数の完全確保ができるよう、現状の課題を全職員で共有するとともに、教育課程を見直し改善を図る。</p> <p>②アクティブ・ラーニングに取り組み、「生徒主体の授業の工夫」「深い学び」に効果的な指導方法を研究することが課題である。</p> <p>②生徒主体の授業の研究が教科全体での取組として推進できるよう教科会を時間割や月間行事予定に組み入れ、時間の確保と活性化を図る。教科別研究授業と協議会を計画・実施し、組織的に授業改善に取り組む。</p> <p>③理科では「サイエンスチャンネル」の内容を充実させ、生徒の主体的な学びを促し、科学・論理的思考力が育成できるよう取り組む。</p>	<p>①授業数確保については改善ができていると考える。次年度100分授業については、より内容を深められるとともに、授業の組み立ても大きく違ってくる。新しいステージにのぼる大きなチャンスと考えられる。</p> <p>②アクティブ・ラーニングについても相当程度行われていると考えられ、自信をもってよいと思う。さらに、1年から6年へと系統立てて取り組めるとよい。</p> <p>③学校評価アンケートの結果から、「筋道立てて考える」と「自然科学への興味関心」が他と比べて低い。探究活動を深める時間が少ないのではないかと期待する。</p>	<p>①標準授業時間数確保のためのプロジェクトチームは後期課程における100分授業の導入、カリキュラムの構築等一定の成果をあげた。今後は実際に標準時間数確保ができたか、それにより充実した学習内容となっているか検証が必要である。</p> <p>②1年から6年までの6年間一貫教育を活かした系統立てたアクティブ・ラーニングの取組みができていない。今後、どのようにカリキュラムを構築できるか課題である。</p> <p>③総合的な学習の時間や教科における学習を通じて、科学・論理的思考力を育成し、より「深い学び」ができるようにしていくことが課題である。</p>	<p>①年間で授業時間数を適宜カウントし検証・見直しを行う。それにより、確実に標準時間数が確保できるようにする。教育課程を見直し、授業時間数の確保を行う。</p> <p>②教科会を定期的に開くことで年間を通じて授業研究や教材等の情報の共有ができるようにする。また、6年間一貫教育を活かし、アクティブ・ラーニングの指導内容・方法を取り入れた6年間のカリキュラムを構築し、継続して系統立てた指導ができるようにする。</p> <p>教科別の研究授業と協議会を実施し組織的な授業改善を行う。</p> <p>③サイエンスチャンネルの内容を受け継ぎさらに理科の教育内容を充実させ科学・論理的思考力の育成を図る。</p>
2 生徒指導・支援	<p>・学年の枠を超えた活動などを通じて、思いやりの心を持ち、高い規範意識を持ち、自ら進んで未来を切り拓く意欲や行動力あふれる、豊かな人間性とリーダーシップを備えた次世代を担うリーダーを育成する教育活動を充実する。</p> <p>・教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーを中心とした組織的な教育相談体制を活用し、個性やケース会議等を実施し個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①あいさつ、時間を守る、身の回りの整理整頓など『道徳』『朝会』などの機会を利用し基本的生活習慣を確立する。また、いじめの早期発見に努めいじめ防止に組織的に取り組む。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーを中心とした組織的な教育相談体制を活用し、情報の共有化やケース会議等を実施し個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①3か月に一度の割合で「あいさつ、時間、整頓」強化月間を設け、この間の道徳や朝会及び各学年やクラス、授業担当など全職員が重点的に指導にあたる。</p> <p>また、いじめの早期発見に対して年度初めにいじめに対する認識の視点を全職員で共有し、防止に向けて全職員で組織的に取り組むことができる体制を保持することができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーと指導グループの情報交換を密にし、またスクールソーシャルワーカーも積極的に活用し、個に応じ</p>	<p>①3か月に一度の割合で強化月間を設け、「あいさつ、時間、整頓」に対して学校全体で指導にあたることのできたか。またいじめの早期発見に対して年度初めに全職員で認識の視点を共有し、その後も常にいじめの防止に向けてグループと学年が中心となり組織的な体制を保持することができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーと指導グループは少なくとも2週間に一度は情報交換を行い個に応じた支援を常に行える体制を保持することが</p>	<p>①今年度は10月28日からの週に強化週間を設け、「あいさつ、時間、整頓」に対して学校全体で指導にあたった。この間毎朝グループメンバーからその目的を説明し、職員と生徒への意識向上を果たすことができた。</p> <p>またいじめの早期発見に対して4月の職員会議において全職員で認識の視点を共有し、日常的にいじめの防止に向けてグループと学年が中心となることができた。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーと生活指導Gは少なくとも2週間に一度、また案件をもつ学年は生活指導Gに関わらずその都度情報交換を行い個に応じた支援を常に行える体制を保持したい。また、ス</p>	<p>①学校教育活動の基本となる、「あいさつ、時間、整頓」をキーワードとした取り組みは今後も継続的に行う。次年度は3か月に一度の割合で状況の見極めのためにも強化月間・週間を設けて取り組む。また、いじめの早期発見や防止のために全職員がいじめに対する認識の視点を共有し、常に生徒を見つめた指導を継続する。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーと生活指導Gは少なくとも2週間に一度、また案件をもつ学年は生活指導Gに関わらずその都度情報交換を行い個に応じた支援を常に行える体制を保持したい。また、ス</p>	<p>①集団生活を行うにあたり、いわゆる「グループカースト」と呼ばれるような状況にはならないだろうか。活発に活動する生徒とそうではない生徒に分かれてしまうことがないように心掛けることも大切である。</p> <p>②集団の中の個を見つめて把握するために積極的な教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーとの協力が必要である。</p>	<p>①すべての学校教育活動を安定した環境の下に行えるように引き続き「あいさつ、時間、整頓」を定期的に呼びかけ、その現状を把握していきることが必要である。また、いじめの早期発見や防止のために全職員が常に生徒を見つめ、寄り添った指導を行っていくことが必要である。</p> <p>②すべての生徒の心の動きを把握するために、教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーを積極的に活用し、場合によってはスクールソーシャルワーカーと連携し、個に応じた支援体制を保持する必要がある。</p>	<p>①3か月に一度の割合で強化週間を実施し、その都度生徒の現状を把握し指導に活かす。委員会等生徒を活用し生徒相互の意識の向上を図る。PTAとも連携し組織的に取り組む体制を構築する。</p> <p>②教育相談コーディネーター・スクールカウンセラーと2週間に一度情報交換をし、生徒の現状を把握していく。全職員が生徒一人ひとりをみつめ、心に寄り添う指導を行い個に応じた支援をする。</p>

				た支援を充実させる。	できたか。また、スクールソーシャルワーカーも事案により積極的に活用することができたか。	る体制を保つことができた。	クールソーシャルワーカーも事案により積極的に活用する。			
3	進路指導・支援	<p>・これからの国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備え、よりよい社会の構築に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材の育成に取り組む。生徒一人ひとりのキャリアプランニングの充実にもむけ支援する。</p> <p>・段階的・系統的な進路指導を実施し生徒の進路意識を高め、生徒の高い進路希望の実現に向け組織的な支援をする。</p>	<p>①『総合的な学習の時間』では「キャリアプランニング」と「探究活動」を位置づけ発達段階に応じたキャリアプランニングと主体的に課題を解決する姿勢を身に付け社会に貢献する次世代を担うリーダーの育成に向け取り組む。</p> <p>②進路ガイダンスや学部学科研究等前期課程から生徒の進路意識を高め、国公立大学受験をはじめ生徒一人ひとりのより高い進路実現に向けて組織的に取り組む。</p>	<p>①前期課程の『総合的な学習の時間』の成果を活かし、後期課程での「自己発見チャレンジ」および「かながわ次世代教養」において、自己の興味・関心または将来の目標に関連したテーマを設定しより充実した探究活動を目指す。</p> <p>②「進路のてびき」を作成し、進路ガイダンスを計画的に実施することで生徒の進路意識を高めるとともに、生徒一人ひとりと進路相談を行うなど、進路実現に向けた支援体制を整える。</p>	<p>①前期課程の取組みが、後期課程での「自己発見チャレンジ」および「かながわ次世代教養」でのテーマ設定につながり、将来の目標を見据えた探究活動ができたか。</p> <p>②今年度の卒業生のうち、65%以上の生徒が進路希望を実現したか。</p>	<p>①前期課程の職業体験や、多種多様な進路についての研究を通して、生徒一人ひとりが自己の生き方、あり方を考えるとともに、興味・関心や進路に基づいた研究テーマを設定し、将来を見据えた探究活動を行うことができた。</p> <p>②今年度の卒業生のうち、事故の進路希望を実現した生徒は65%を超え、数値目標は達成した。</p>	<p>①「自己発見チャレンジ」では、研究施設の受入事情等から希望通りの活動にならないことが多い。今後は本校卒業生が在籍する様々な大学等に協力を依頼するなどして、活動のフィールドを広げていく必要がある。</p> <p>②生徒一人ひとりの進路希望を実現させるために、個の支援体制を更に充実させ、できる限り早い段階で進路意識を持たせ、具体的な目標を設定させることが重要である。</p>	<p>・将来を見据えた探究活動は、その成果が進路実現に結びついた生徒もいるなど、十分に評価できる。</p> <p>・学力不振者等への支援について、保護者の理解・協力も得た具体的な取り組みが必要である。</p>	<p>①本校のキャリア教育の趣旨を理解し、有意義な探究活動を進める生徒が増えているが、一方で単なる調べ学習に終始する生徒も多い。プレゼンテーション力は比較的高いが、学問的な探究、実験・実証・考察の点で更なる内容の充実が課題である。</p> <p>②後期課程では生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組みが充実してきたが、前期課程における学力不振者等への組織的・計画的な取組みを実現させる必要がある。</p>	<p>①調べ学習と探究活動の根本的な違いを生徒に理解させるとともに、生徒一人ひとりの興味・関心や進路に基づいた探究活動が可能となるようなフィールドを少しずつ増やしていく。テーマ設定や探究活動の方法など丁寧な指導を行う。</p> <p>②前期生については平日の補習体制を早急に整える必要がある。後期生については、より早い段階から進路相談体制等を充実させる。</p>
4	地域等との協働	<p>・地域の小・中学校や大学、研究機関、企業、NPO法人等外部機関と連携し協働する取組を推進する。</p> <p>・6年間の一貫教育の本校の魅力を広く県民に広報し、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>・部活動や委員会活動を通して地域防災活動を中心に地域社会との連携・協働を進める。</p>	<p>①地域の大学や研究機関と連携した教育活動を充実させる。部活動や委員会などの地域と協働した活動の充実を図る。</p>	<p>①さまざまな連携によって、生徒や職員と地域との交流が深まったか。</p>	<p>①特別土曜講座における神奈川大学、横浜国大など各大学の先生による講演会（6回）、総合的な学習の時間における大学院生のワークショップ、東京弁護士会による模擬裁判、北里大学看護学科生徒の受け入れなどを実施した。地域貢献活動として、地域の美化活動を年間2回実施した。</p>	<p>①連携の機会の拡大が課題である。地域貢献活動の機会を年4回程度に増やす。さらに、内容の充実を図るため、美化委員会に活動内容を検討させることで、より主体的な活動になるよう働きかける。特別土曜講座では、生徒のニーズにあった内容の充実と、時間等の設定の工夫をすることで充実を図る。</p>	<p>・「多様性と共生」がこれからの教育のキーワードの1つである。様々な分野に興味・関心を持ち、探究していく力を中等生には伸ばして欲しい。</p> <p>・PTAと生徒とのつながりを深めるため、保護者が生徒ともっと関わることができるような機会を持つことができると良い。</p>	<p>①平成28年度はPTA役員と生徒会生徒との話し合いの場が持てた。また、2年生が相模原市内の小中学校等で職業体験を行うなど、地域との交流体験ができた。地域貢献活動、特別土曜講座の充実を図るとともに、今後、さらに地域や保護者との協働の機会を増やしていくことが課題である。</p>	<p>①地域貢献活動については実施回数を増やすとともに、内容の充実を図る。特別土曜講座については、生徒のニーズに合わせた様々な内容を設定するとともに、実施時間帯を午前のみから変更し、より多くの生徒が参加できるような工夫をする。外部機関との連携をさらに発展させる。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・教育公務員としての高い使命感・倫理観を持ち服務規律を遵守するとともに、各グループ・学年を超えた協働体制を整え全職員が責任・使命感を持ち、入学決定業務、個人情報保護や適正な会計処理等事故・不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①入学決定業務において採点等改善策を検討・実践する。全職員の責任感・使命感を高め事故ゼロの継続に向けた取組を推進する。</p> <p>②事故・不祥事防止研修会を実施し会計業務、個人情報等の事故・不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①入学決定業務の課題を共有し把握し、改善を図り、事故ゼロの継続に向け組織的に取り組む。</p> <p>②事故・不祥事防止研修会を年間計画に従って開催する。</p>	<p>①②教育公務員としての自覚を深めるとともに、組織の一員として協働意識を向上させ、事故を未然に防ぐという意識を持って行動したか。</p>	<p>①昨年よりも受検生が増える中、採点・点検など合否の決定に至る過程において課題を共有し、事故が無く業務を行なえた。</p> <p>②事故・不祥事防止研修会を年間計画に従って開催した。県発行の点検資料等を活用し、事故・不祥事防止について注意喚起することができた。</p> <p>また、生徒一人ひとりの心に寄り添う指導が不十分な面があった。</p>	<p>①課題を共有するために、グループリーダー全職員が業務を理解していくことが課題である。</p> <p>②事故・不祥事防止に向けて、いじめ・体罰防止や入学決定業務、会計処理等職員研修を適切な時期に計画し実施する。生徒一人ひとりの心に寄り添った指導を心がけ、声かけ等丁寧に行う。</p>	<p>・6年間一貫教育の中等教育学校という、周囲からの高い期待に十分応えていると思う。</p>	<p>①今年度は事故無く入学決定業務を行なえたが、今後も円滑な業務ができるよう、組織的な業務運営の改善を図ることが必要である。</p> <p>②事故・不祥事防止については、今後も注意喚起をしていくことが必要である。また、生徒一人ひとりに寄り添う指導が不十分であった。</p>	<p>①入学決定業務において注意すべき点を共有し、全職員が事故なく業務に携われるようにする。</p> <p>②事故・不祥事防止研修会、いじめ・体罰防止研修会等の研修会を計画するとともに、各種資料の活用を図る。適切な時期に全職員に注意喚起を行う。生徒一人ひとりの心に寄り添う指導ができるよう全職員で意識の向上を図り取り組む。</p>